

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
 発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円
 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
 MMビルII 402
 TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
 郵便振替 00150-7-355202
 ホームページ http://genpatu.com/index.html
 メール=genpatu-c@bizimo.jp

第371号

2020年
2月25日

月1回25日発行

げんぱつ

原発住民運動が青報

第33回全国総会・交流集会

原発撤退 再エネへ合意形成を

「五輪で福島事故終わり」は許さない、原発依存・固執をやめさせ、再生可能エネルギーへの転換を求めて、原発問題住民運動全国連絡センター(原住連)は二月十六日、川崎市内の「サンピアンかわさき」で第33回全国総会・交流集会を開いた。

谷崎嘉治代表委員(青森)を議長に選出。持田繁義代表委員(新潟)が開会あいさつ。伊東達也筆頭代表委員が全国総会・交流集会への代表委員会報告(三面)八面参照)を行った。

伊東氏は、事故十年目を迎える現在、八万五千人の被災者が故郷

に反れていない被災地福島の現状を報告。事故十年で事故は終わった」「五輪で事故は終わった」として、損害賠償などを打ち切る、裁判外紛争手続き(ADL)が出ても拒否するなど国と東京電力の無責任さを追及した。

伊東氏は、原発で経営は成り立たなくなつて久しいにもかかわらず、原発依存・固執などほありえないことを指摘。事故十年目を迎えて、いまこそ福島事故の検証、日本原子力政策の検証を行うことは国と電力会社の最低の責務であることを強調。国と電力会社が原発事故の加害責任を率直に認めるなら、国と電力会社が「原発・

核燃からの撤退」し、再生可能エネルギー転換への先頭に立つ責務があると指摘した。

討議では、北海道、福井二人、新潟二人、宮城、鹿児島、青森の代表八人が発言(二面参照)。伊東氏の代表委員会報告を深める討論となった。伊東氏が討論のまとめを行った。全国総会・交流集会は、代表委員会報告、討論のまとめの内容を参加者一同、共有することを確認し合った。

つづいて、全国総会・交流集会は次期代表委員を選出した。(二面参照)

高野博前代表委員は、中嶋廉氏と交代。全国総会・交流集会は、高野氏の長年の原住連の活動に謝意を表した。

閉会あいさつは、次期全国交流集会開催地の伊東筆頭代表委員が行った。

警鐘

●「多大な迷惑、ご心配、ご負担をおかけして申し訳ありませんでした」これは、二月十七日の交渉での東京電力、電気事業連合会代表の冒頭の謝罪発言●原住連参加者は、この謝罪発言に著しい違和感を受ける。「申し入れ」に対する回答が続くが、その回答に誠実さがまったくうかがえないからである。実にむなしき気分が襲われる。事故十年目を迎えて、原子力事業者には事故はとうに終わったことを知らされる思いである●現実には、福島原発事故による原子力災害はつづいている。被害はつづいている。

伊東氏は、事故十年目を迎える現在、八万五千人の被災者が故郷

に反れていない被災地福島の現状を報告。事故十年で事故は終わった」「五輪で事故は終わった」として、損害賠償などを打ち切る、裁判外紛争手続き(ADL)が出ても拒否するなど国と東京電力の無責任さを追及した。

核燃からの撤退」し、再生可能エネルギー転換への先頭に立つ責務があると指摘した。

「原発事故十年目の福島を見る」全国交流集会

○現地見学 五月十六日(土曜日) 土時二十分R「いわき」駅改札口前集合

*コース: いわき市→広野町→楢葉町→富岡町→大熊町→双葉町→浪江町

津島 最大汚染地区 →夕方宿舎着(JR福島駅前)

○懇親会 同日午後七時、宿舎「ホテル福島グリーンパレス」

○全国交流集会 五月十七日(日曜日) 午前十時

*場所: 「ホテル福島グリーンパレス」

- 伊東達也筆頭代表委員の全国代表委員会報告(三面)八面
- 原子力規制委員会への申し入れ(九面)
- 電気事業連合会への申し入れ一部・東京電力への申し入れ概要(五面)



全国代表委員会報告を行う伊東筆頭代表委員